

支那だより

Newsletter No.61

広報委員会

(一社)日本道路建設業協会
中部支部

〒460-0003

名古屋市中区錦三丁目7番9号
(太陽生命名古屋第2ビル8F)

TEL.052-971-5310

令和6年度 授乳室寄贈先



目次

支部長 新年挨拶	1
幹事長 新年挨拶	1
中部地方整備局長 新年挨拶	2
第76回 日本道路建設業協会 中部支部 定時総会・役員・委員会紹介	3
中部地方整備局・県・政令市との意見交換会(本部)	4
中部地方整備局実務者との意見交換会(支部)	5
若葉だより	6
アスファルト舗装技術に関する講習会	8
舗装施工管理技術者講習会	8
コンプライアンス講習会(労働基準法に関する講習会)	8
道路建設技術講演会	9
建設技術フェア2024in中部(学生ひろば)	9
ICT舗装工事現場見学会	9
安全パトロール(安全委員会)	10
中部緊急防災隊式典	10
中部緊急防災協会 令和6年度 通常総会・役員・地区事務局紹介	11
防災訓練	11
日本道路協会 道路功労者表彰伝達式	12
道建協の社会・環境貢献活動	12
会員だより・編集後記	13
道路開通	

■表紙写真

道の駅 授乳室・授乳チェアの贈呈

令和6年度 授乳室寄贈先 8駅



- 1 〈岐阜県〉揖斐川町 夜叉ヶ池の里さかうち
- 2 〈静岡県〉伊東市 伊東マリンタウン
- 3 〈長野県〉飯田市 遠山郷
- 4 〈岐阜県〉本巣市 織部の里・もとす
- 5 〈岐阜県〉飛騨市 宙ドーム・神岡
- 6 〈岐阜県〉下呂市 馬瀬 美輝の里
- 7 〈岐阜県〉恵那市 そばの郷 らっせいみさと
- 8 〈静岡県〉沼津市 くらら戸田



新年挨拶

新年あけましておめでとうございます。会員各社の皆様には幸多き新春を迎えられお喜びを申し上げます。年頭にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は道路業界にとって、とても慌ただしい1年となりました。1月1日発生した能登半島地震、9月21日に発生した能登半島豪雨と同じ地域で2つもの大災害が発生しました。被災されたすべての方に心よりお見舞いを申し上げますと共に被災地の早期の復興と被災されたみなさまの生活が1日も早く通常を取り戻されることを心よりお祈りしております。会員の皆様には、復旧のためにご尽力を頂いたことに感謝いたします。

また、4月1日からは時間外労働の上限規制がスタートし、第三次担い手3法の成立に伴う、労働者の処遇改善、生産性の向上など働き方改革の加速が進む一方、アスファルト製造数量の減少には歯止めがかからず、2023年度のアスファルト合材製造数量は3500万tを切り、過去最低を更新しました。2024年度さらに最低記録を更新することが予想されています。世界的にはロシアのウクライナ侵攻、中東情勢の混迷によりエネルギー資源やさまざまな資材不足への懸念が続いています。原油高によるエネルギー価格の高騰、円安による輸入原材料の高騰など経済の先行きが昨年と同様に不透明な一年となりました。

国土省は、国土強靱化年度計画2024を決定し強靱化実施中期計画を明記して災害に対する国土強靱化の取組を強化するとし、NEXCO3社においては4車線化の推進、1.5兆円を超えるインフラ更新を決め老朽化対策に取り組むこととしました。

我々の業界は建設許可業者の減少、就業者数の減少、倒産社数の増加と大きな課題を抱えておりますが、数年前からのダイバーシティ等の取組により女性就業者数が88万人、全従事者数483万人の18.2%となり、3年連続の増加で過去最高を記録し明るい兆しも見えてきている面もあります。

そうした状況の中、昨年と同様に支部活動行事は総会、中部地方整備局、NEXCO中日本との意見交換会、道路建設技術講演会などの行事を予定通り行いました。会員各社の皆様には大勢出席していただきました。有難うございました。

私たちの業界は社会の経済活動、住民生活を支えるインフラ整備、災害対応など世の中で不可欠な役割を果たす使命を担っていると自負しております。働き方改革の推進、カーボンニュートラルへの取組み、i construction 2.0の取組みなど急激な環境変化にしっかり対応し、魅力ある業界づくりを進めて行かなければいけないと思っております。

2024年は乙巳年です。乙は「木」の意味も持ち、草木がしなやかに伸び、広がっていくさま、また巳は脱皮を繰り返すことにより不老不死の象徴にもされています。ゆえに乙巳年は柔軟に変化し、次世代のために進化して大きく伸びていく年だと思えます。

今年一年、皆様ご協力のもと道路建設業協会が皆様と共に進化し、皆様がさらに向上する年となるよう精進して参ります。最後になりましたが、会員各社様にとりまして、2025年が幸多き一年でありますことを祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



支部長 山縣 裕
(NIPPO株式会社名古屋支店 執行役員支店長)



新年あけましておめでとうございます。

会員各社の皆様には幸多き新春を迎えられお喜びを申し上げます。年頭にあたり御挨拶申し上げます。

昨年は能登半島地震に始まり、南海トラフ地震臨時情報初発表、異常とも言える猛暑と多くの自然災害と向き合う事となった1年でした。また、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナ紛争、急激な円安に伴う大幅な物価高騰などは継続しており、厳しい政治・経済状況は依然として続くものと考えられます。このような状況下ではありましたが、パリオリンピックでの日本人選手の躍進・大谷翔平選手のメジャーリーグでの大活躍等を目の当たりにし大いに勇気づけられた1年でもありました。

我々道路建設業界に目を転じますと、高齢者増加が懸念される「2025年問題」にまさに直面する年となり、担い手不足や従業員の高齢化等の様々な問題と向き合う事となります。この問題に立ち向かう為に、多様な人材雇用の促進・労働環境改善・DXの推進による業務の効率化や生産性の向上・技術の伝承の確実な推進等を実現させる事で、人材不足・長時間労働といった諸問題を解決し、一層魅力ある働きやすい業界となるよう進んでいかねばなりません。会員一丸となり取り組んで参りましょう。

2025年の干支は巳です。この巳の字は蛇の姿を表しており、蛇は脱皮を繰り返すことから巳年は「復活と再生」を意味し「努力を重ね物事を安定させていく」という意味合いを持つ年とされています。今までの努力が大きな成果となって結実する年となるよう皆様のご協力をお願い致します。

会員各位ならびに関係者の皆様方にとりまして、素晴らしい年となることを祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

幹事長 中川 雄一
(日本道路株式会社中部支店 執行役員支店長)



新年 挨拶



国土交通省
中部地方整備局長
佐藤 寿延

明けましておめでとうございます。令和7年(2025年)の年初に当たりご挨拶申し上げます。

本年は、中部地方整備局管内において42.6kmの高規格道路、直轄国道が新たに開通します。直近10年では一番長い延長となります。

期間の長い道路では約半世紀の時を経ての開通になります。日本道路建設業協会中部支部の皆様におかれては、これらの道路の整備についてご協力をいただきありがとうございます。

道路がつながることで、その地域だけではなく、広いエリアで大きな効果が出てくることを期待しています。中部圏全体に様々な波及効果がでてくると考えています。

現在、「つながる中部42.6」と銘打ち経済界等も巻き込みながらキャンペーンを行っています。

過去から積み重ねてきた事業について完了のメドがつつきつつある一方で、次の中部圏を担うインフラをしっかりと計画し、事業化に向けて進めることが重要です。令和7年は、今までの事業の成果を出す

とともに、新たな中部圏の姿を打ち出す年と考えています。

具体的には、道路については、名古屋港を中心に東西に半円状となる一宮西港道路や愛知県が検討を進めている名古屋三河道路等をはじめ約100kmの路線について検討、手続きを進めています。これらも含め、令和7年は次世代のプロジェクトを仕込む年です。しっかりと歩みを進めたいと思います。

本年もよろしくお願いいたします。



第76回 日本道路建設業協会 中部支部 定時総会

5月30日(木)にメルパーク名古屋で第76回定時総会が開催されました。

令和5年度の事業報告と決算についての承認、令和6年度の事業計画と予算等を審議し、承認しました。

役員改選では山縣裕支部長を再選しました。

山縣支部長は冒頭のあいさつで能登半島地震に触れ「道路は生活に必要な不可欠なインフラであり維持していく重要な仕事を我々は担っている。」と強調されました。

また、4月より適用された時間外労働時間の罰則付

き上限規制についても「業界だけでは解決できないことでもあり、関係機関の協力も得ながら働き方改革を進めて、担い手確保につなげていきたい」と述べられました。

続いて本部の西田義則会長が「様々な課題への適切な対応など事業活動を推進する」と述べ、会員各社に協力を要請しました。

総会の後、技能社員表彰式が行われ、本年度は9名の方が対象となり西田会長より表彰状と記念品が贈られました。



■ 支部役員

役員	氏名	会社名	役職
支部長	山縣 裕	(株)NIPPO 中部支店	執行役員支店長
幹事長	中川 雄一	日本道路(株) 中部支店	執行役員支店長
幹事	井上 一人	鹿島道路(株) 中部支店	支店長
〃	岡田啓源	前田道路(株) 中部支店	支店長
〃	國島太佳生	(株)市川工務店	常務取締役
〃	櫻井 真	福田道路(株) 中部支店	執行役員支店長
〃	杉山雅浩	大林道路(株) 中部支店	執行役員支店長
〃	田光 剛	東亜道路工業(株) 中部支社	常務執行役員支社長
〃	中野谷眞己	大有建設(株)	取締役常務執行役員建設事業本部長
〃	難波陽一	中部土木(株)	代表取締役社長
〃	秦 純二	朝日土木(株)	会長
〃	平井美次	中村建設(株)	常務取締役
〃	淵上 修	(株)ガイアート 中部支店	執行役員常務支店長
〃	松居 広	岐建(株)	常務取締役本店長
〃	松本辰男	世紀東急工業(株) 名古屋支店	執行役員支店長
〃	宮内友孝	(株)佐藤渡辺 中部支店	執行役員支店長
〃	若林和仁	大成ロテック(株) 中部支社	支社長
会計監事	梶原謙彰	三井住建道路(株) 中部支店	理事支店長
〃	住友哲也	花菱建設(株)	代表取締役社長
顧問	尾出 清	(株)NIPPO 中部支店	参事

■ 委員会:委員長・副委員長

委員会名	委員長	副委員長
企画運営委員会	山縣 裕	中川 雄一
作業部会	尾出 清	間宮敏博
働き方改革実行委員会	宮内友孝	杉山雅浩
建設コスト委員会	中川 雄一	佐藤 渉 杉山雅浩
環境委員会	岡田啓源	櫻井 真
技術委員会	田光 剛	井上 一人
安全委員会	淵上 修	宮内友孝
広報委員会	松本辰男	若林和仁
防災委員会	山縣 裕	中川 雄一



中部地方整備局・県・政令市との意見交換会（本部）



支部総会后、中部地方整備局、岐阜、静岡、愛知、三重の4県及び静岡市、浜松市、名古屋市の3政令市と日本道路建設業協会の意見交換会をメルパルク名古屋で開催しました。中部地方整備局からは佐藤局長を始め11名、4県・3政令市からは7名、道建協本部から西田会長を始め11名、中部支部から山縣支部長を始め31名が出席しました。

冒頭の西田会長の挨拶では、能登半島地震の一日も早い復旧・復興の実現のため協会が一丸となって対応すると述べ、国土強靱化実施中期計画の早期策定、必要十分な予算規模と事業量確保を要望、担い手確保では12年連続で設計労務単価が引き上げられたことへの感謝の意を表しました。4月から適用された時間外労働の上限規制では、協会が2017年から働き方改革に向けた基本方針を策定し、これまで段階的に取り組んできたこと、昨年度、日本アスファルト合材協会と共同で働き方改革推進宣言を行ったことに触れ、今後も発注機関の協力を得て取組推進するとした。さらに道路は国民の命と生活を支える基盤であり、地域の安全で快適な生活環境を確保する上で重要なインフラであるとし、道路整備の一翼を担う道建協は高い社会的使命を担っているため、会員各社から寄せられた諸課題について意見を交換し相互理解を深めたいと述べました。

続いて、佐藤中部地方整備局長からは、能登半島地震への協会の迅速な対応に謝意を表するとともに、中部整備局管内も半島部を抱えており、伊豆、志摩、

東紀州は南海トラフ地震で甚大な被害が想定されるため6月中に半島部の対応を検討する場を設けると説明。本年度事業については、直轄、高速道路会社を含め42.6キロが開通する予定とし、早期開通への協力を要請しました。時間外労働の上限規制は、物流など建設業界に大きく影響するので、中部運輸局や各労働局など関係機関と調整しながら取り組むので相談してほしいと呼びかけました。設計労務単価の引き上げは、現場も賃金が上がってきた実感を持っているが、若者の定着に必要なのは週休2日、新規入社社が増え定着することが重要と話し、業界と連携して取り組んで行くことを強調しました。

意見交換会では、公共工事予算の安定的・持続的な確保、道路舗装工事における労働環境の改善と担い手確保、道路舗装工事におけるi-Pavementと新技術開発の推進と普及、入札・契約制度の改善、舗装工事積算の改善、道路舗装のメンテナンスサイクルの確立、無電柱化の推進をテーマに進められました。道路舗装工事における労働環境の改善と担い手確保については、4県と3政令市からも回答を頂きました。



中部地方整備局実務者との意見交換会（支部）



中部地方整備局と日本道路建設業協会中部支部との意見交換会を11月26日にKKRホテル名古屋で開催しました。

中部地方整備局からは渡邊技術調整管理官を始め11名、中部支部から山縣支部長を始め30名が出席し整備局の実務者と活発な意見交換を行いました。

意見交換会では、公共工事予算の安定的・持続的な確保及び舗装工事の発注件数の継続的な確保、技術者の有効配置のための入札から落札決定までの期間短縮、見積参考資料に関する質問への対応、工事成績評価における夜間工事の安全対策評価の向上、アスファルト舗装切削オーバーレイ工事、現道補修工事について間接工事費の実績変更方式の追加特記仕様書への明記、低炭素(中温化)アスファルト舗装の積極的採用等について要望を行いました。

中部地方整備局からは、新しいプロジェクトの調査・検討を推進し令和7年度以降も必要な予算の確保に努める、舗装工事の発注件数、発注規模は個々の現場を考慮して継続的な発注となるよう取り組む、入札期間短縮については技術資料と入札書を別々に提出する同時提出型を採用しているが事前に工事施工内容確認資料を提出しヒアリングに代えることで手続期間の

短縮を図っている、見積参考資料の内容でない誤記や不明確な表示などについては質問に応じるよう指導する、夜間工事については一律に評価するのではなく施工条件や実施内容等により適切な評価に努める、切削オーバーレイ工事の日当たり施工量については現場の実態に把握に努め必要に応じ基準の改定等に取り組んでいる、間接工事費については諸経費動向調査にて現場の実態の把握に努め必要に応じて基準改定等取り組んでいる、低炭素アスファルト舗装の採用については中温化アスファルトを使用した試行工事の実施に向けた検討を進めている等と回答がありました。



若葉だより

WAKABA DAYORI

取材班
メンバー
紹介

- 新高橋 力 大林道路株式会社 中部支店
- 新加藤 紗穂 株式会社ガイアート 中部支店
- 尾崎由美子 株式会社佐藤渡辺 中部支店
- 原田 夕子 株式会社NIPPO 中部支店
- 畔地 真美 日本道路株式会社 中部支店
- 新志水 大和 三井住建道路株式会社 中部支店
- 渡邊 麻香 (一社)日本道路建設業協会中部支部

Interview

1

現場名・・・ **大有建設(株) 県道名古屋長久手線(中-1)工事**



ヤマダ ショウコ
山田 翔子 さん

入社2年目

一日のスケジュール

- 7:30 現場到着
- [午前]
- ✓ 朝礼、交通規制
 - ✓ 現場の安全管理、温度管理
 - ✓ 写真管理を中心に作業する
- [午後]
- ✓ 午前と同じ現場、書類整理や明日の準備

Q. この仕事を選んだ理由は何ですか？

小さいころから工事現場や重機が動いているのを見る事が好きでした。大学生の時、会社説明会に参加して舗装業界に興味を持ちました。そして実際に自分でも携わり最後まで完成を見届けたいと思って施工管理になりました。

Q. この仕事の魅力を教えてください

竣工時に成果が目に見えてわかるので、頑張ったなど実感が湧いてきて達成感を感じます。

Q. 入社1年目と2年目で気持ちや仕事への取り組み方に変化はありましたか？

名古屋市発注の現場を担当する機会が増え、同じ業務を繰り返し行うので当初より早く正確なものを提出できるようになりました。

Q. 休日の過ごし方は？

友人と食事に行き楽しくおしゃべりをする事です。漫画(ジャンプ)を読むことも好きです。

Q. これからの目標、挑戦したいこと

分からなかったことや学んだことを積極的に後輩に伝えていき、気軽に質問できる存在でありたいです。文字だけでは伝わらない事もあるので、直接相談にのってあげたいです。

Q. 若手を増やしていくためには

職場に話しやすい人がいることや、先輩と後輩が話しやすい環境をつくるのが大切だと思います。社外の人達とも交流出来る場を設けて欲しいです。



おすすめアイテム

LUSHの
ネイルクリーム

(レモンの香りの
ハンドクリーム)



前川 所長

みち若葉さんへ メッセージを頂きました

現場に興味があることから入社後すぐに技術職に配属され、測量業務から現場管理まで日々経験を積んでいるところです。現場で教わったこと、材料の名前、用途、なぜその作業なのか？という原理なのか？をまとめる自社独自のOJTシートには、驚くほど丁寧にわかりやすくまとめられており感銘を受けています。ICT化を進めることで業務の効率化や人手不足解消が期待できますが、何より人と人とのつながりを大切にして大きく飛躍することを期待しています。

Interview

2

現場名・・・前田道路(株) 東名阪自動車道(特定更新等) 桑名管内舗装補修工事(2023年度)



ナカザワ カイ
中沢 快さん

一日のスケジュール

[夜勤]

20時 現場入り

→ 3時 作業終了

→ 4時 撤去完了

→ 5時 帰宅

Q. 実際に働いてみて感じたギャップはありますか？

現場でコミュニケーションがこんなにも求められるのかと驚きました。協力業者の方々と意思疎通ができていないと施工もうまく進まないことがあります。ですので、初対面の方にも自分から話しかけるなど、積極的にコミュニケーションをとるよう心掛けています。

Q. この仕事の魅力を教えてください

綺麗になった道路を使ってもらえることです。着工前と竣工後の写真を見比べると喜びややりがいを感じます。

Q. 入社1年目と2年目で気持ちや仕事への取り組み方に変化はありましたか？

1年目は材料や道具、機械の名称や作業内容など基本的な事を徐々に覚えていきました。2年目からは一人で段取りをしなければいけないという意識をもって、先輩の仕事を見て覚えるようにしています。

Q. 頑張ろうと思えた時はどんな時ですか？

失敗して落ち込んだ時に、先輩方に「最初は誰にでも失敗はある」と励ましてもらった時です。

日勤の時は、朝礼の前に事務所の花に水やりをしています

Q. 同じ業界で働く若手へメッセージをお願いします

若手が先陣を切って活躍ができるように共に頑張りましょう。



四日市市で
おすすめのお店

**鶏そば
なる川**
(ラーメン)



森下 所長

みち若葉さんへ メッセージを頂きました

若手技術者が減少する中で、若手社員に対する期待は大きいです。また労働時間の縮減等働く環境が大きく変化する中で、自分の能力を効率的に最大限発揮しなければなりません。自分から積極的に業務に取り組みその中で自分の頭で考えていただきたいと思います。そして、失敗を恐れずチャレンジしてもらいたいです。これから、様々な現場(工事)に従事するかと思いますが常に課題意識を持って取り組むことを期待します。これからの道路業界の未来の発展に期待します。

最後に・・・ 今回、取材チームに新たなメンバーが3名加わりました。今までは女性のみで取材をしていたのですが、男性も2名加わり新たなメンバーで新たな視点から記事を作る事ができたと思います。多様性が求められる現代において、若葉だよりも時代に合わせた情報をみなさんにお届けできればと思っています。今回取材にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

アスファルト舗装技術に関する講習会

愛知県アスファルト合材協会・日本道路建設業協会中部支部



愛知県アスファルト合材協会と日本道路建設業協会中部支部は7月11日、名古屋市の名古屋ガーデンパレスで「2024年度アスファルト舗装技術に関する講習会」を開き、両会員企業より約140名が参加し最新の舗装技術などを学びました。

冒頭、愛知県アスファルト合材協会技術管理委員会の櫻井正典担当理事が「原油価格高騰や担い手不足などが課題となる。継続的な成長につながるよう講習の内容を役立てて欲しい。」と挨拶されました。

講習会は、舟橋邦顕中部地方整備局道路部道路

管理課長から「道路をめぐる最近の取り組み」、橋本靖彦リーグルジャパンシニアプロダクトマネージャー・日南茂雄アクティオ道路機械事業部ICT営業部次長から「舗装工の出来形管理・ICT切削について」、赤堀良介愛知工業大学工学部社会基盤学科教授から「近年の水害に関するトピックスと対策・対応に際しての意識」、平山佳幸東洋スタビ営業課長・古田昭二東洋スタビ技術課長から「スタビライザを用いた出来形管理ICT技術とカーボンニュートラルへの取り組み」と題して行われました。

舗装施工管理技術者講習会

日本道路建設業協会は8月29日、名古屋デザインホールで舗装施工管理技術者を対象とした技術講習会を開催し、中部支部会員企業から約80名が参加しました。

冒頭、中部支部の山縣裕支部長は「エネルギー資源の高騰や資材不足の懸念が企業活動や国民生活に影響を及ぼしている。一方で、建設業では技能労働者の減少が課題であり、賃金上昇や安全対策など就業環境の改善や生産性の向上が求められている」と訴え、本講習会を「知識を習得する機会とし、現場に生かしてほしい」と呼び掛けました。

続いて、中部地方整備局道路部の藤山一夫道路情報管理官が「道路をめぐる最近の取り組み」をテーマに講義した他、日本道路建設業協会の青木一生氏が「舗装工事の安全対策」、吉田一道氏が「建設副産物対策」、坂東芳博氏が「最近の舗装技術の動向」をテーマに講習を行っていただきました。



コンプライアンス講習会 (労働基準法に関する講習会)

日本道路建設業協会では、平成29年度からコンプライアンスに関する講習会として、独占禁止法、暴力団排除、労働基準法をテーマとした講習会を開催しています。

中部支部においては、10月25日に名古屋ガーデンパレスで労働基準法に関する講習会を開催しました。

冒頭、岡田啓源中部支部環境委員長は、「時間外労働の上限規制や安全確保、ハラスメント防止などの課題に取り組むため、講習内容を業務に活かして

ほしい」と挨拶しました。

続いて、愛知労働局の石原正和労働基準部監督課地方労働基準監督監察官が「建設業における時間外労働の上限規制について」、桜木勉労働基準部安全課地方産業安全専門官が「倫理的な安全衛生管理の定着」、澤田由希雇用環境・均等部指導課労働紛争調整官が「事業主に求められるハラスメント防止対策」をテーマに講習を行い、約40名が受講しました。

道路建設技術講演会

日本道路建設業協会中部支部は、11月7日「令和6年度道路建設技術講演会」を名古屋市の東文化小劇場で開催しました。会員企業などから約120名が受講し、建設材料や道路行政の動向を学びました。冒



頭、山縣裕支部長は「講演会の内容を技術力や生産性の向上につなげてほしい」と挨拶しました。続いて、岐阜大学の國枝稔工学部社会基盤工学科教授が「進化し続ける建設材料」、名城大学の中村一樹工学部社会基盤デザイン工学科教授が「人中心の道路空間とは」、中部地方整備局の藤山一夫道路情報管理官が「道路行政の最近の話題」をテーマにそれぞれ講演していただきました。



國枝 岐阜大学教授



中村 名城大学教授



藤山 中部地方整備局
道路情報管理官

建設技術フェア2024in中部 (学生交流ひろば)

建設関連の最新技術・工法を紹介し、産学官の交流を図る『建設技術フェア2024in中部』が、11月28日・29日の2日間、『第12回 中部ライフガードTEC2024』と合同で開催されました。昨年に引き続き、名古屋市港区のポートメッセなごや第3展示館を会場に、DX・i-Constructionや維持管理・予防安全など5分野に369企業・団体が出展、施設内の出展ブースや屋外展示会場に多くの人を訪れました。

今回は「新たなキュン 感じませんか #建設フェア」をコンセプトとし、学生を対象とした技術コンペティション「夢をつくるプロジェクト」に全国から64人の応募

があり、プレゼンテーションと表彰式が開かれました。最優秀賞はスマートヘルメット「HELMOTTO」が選ばれ、優秀賞3件、特別賞1件も選出されました。

当協会も「学生交流ひろば」を継続して運営し、2日間で92名の学生来場者に道路業界の仕事内容、最新技術を直接会って説明しました。学生からは「イメージより休日取得の配慮がある」との話を聞き、仕事や技術だけではなく働き方についても理解してもらえ、道路建設の必要性も含めPRすることができました。

昨年よりも約2,000名多い 18,281名の来場者を迎え、盛況のうちに終了しました。

ICT舗装現場見学会

日本道路建設業協会のi-Pavement推進本部では平成29年度からICT舗装工事が直轄工事で導入されたことを受け、ICT舗装技術の普及を目的に、本年度も全国各地で現場見学会を開催しています。

中部支部では9月13日に中部地方整備局が発注した令和5年度23号蒲郡BP金野東舗装工事(東亜道路工業(株)施工)の現場で10名が参加し、ICT舗装工の実施体制などの知見を深めました。

最初に現場事務所で現場代理人から工事概要と現場で導入しているICT舗装工の実施状況について、路床盛り土はMC(マシンコントロール)ブルドーザーによる施工とGNSS(全球測位衛星システム)を用いた締め固め管理、TLS(地上型レーザーキャナー)による出来形管理を行うなど、路盤工とアス

ファルト舗装工の各段階の取り組み内容を説明しました。ICT機械を使用することで丁張りが不要で、水系での検測が要らず人員が削減でき、安全も確保できるなどのメリットを挙げました。また、誰でも簡単にボタン一つで空間を3Dスキャン撮影できるサービス「3Dカメラ(Matterport)」の説明も行われました。

その後、現場に移動し、MCモーターグレーダーやGNSSタイヤローラーによる作業、TS(トータルステーション)による出来形検測などの様子を見学しました。

見学後、中部地方整備局名四国道事務所の大熊副所長からあいさつ、同協会の片山広報・技術部技術課長よりICT舗装工の施工事例について説明を行いました。

安全パトロール（安全委員会）

安全委員会では、国土交通省中部地方整備局及びNEXCO中日本発注工事の現場において安全点検を実施しています。安全パトロールでは、工事概要説明を受けてから安全点検を実施、最後に良好な事項と是正する事項について報告した後、全体の講評を行い安全対策の更なるレベルアップを図っています。

- **第1回**
令和6年
4月9日(火)
(参加20名)

実施場所	NEXCO中日本名古屋支社 東名阪道集中工事、名二環集中工事
工事名等	清洲西IC～名古屋西JCT間(外回り)舗装改良工事 東亜道路工業(株) 名古屋管内維持修繕業務 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株) 桑名管内舗装補修工事 前田道路(株)
参加者	名古屋支社 保全サービス事業部 2名 名古屋支社 名古屋保サービスセンター 5名 名古屋支社 桑名保全サービスセンター 3名 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株) 4名 日本道路建設業協会中部支部 6名

- **第2回**
令和6年
5月21日(火)
(参加23名)

実施場所	NEXCO中日本名古屋支社 名神高速道路春季集中工事
工事名等	一宮JCT～岐阜羽島IC間(上り線)舗装改良工事 世紀東急工業(株) 一宮JCT～岐阜羽島IC間(下り線)舗装改良工事 鹿島道路(株) 関ヶ原IC～八日市IC間舗装補修工事 前田道路(株) 彦根管内維持修繕業務 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)
参加者	名古屋支社 保全サービス事業部 3名 名古屋支社 羽島保全サービスセンター 3名 名古屋支社 彦根保全サービスセンター 4名 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株) 3名 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株) 羽島事業所 2名 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株) 彦根事業所 2名 日本道路建設業協会中部支部 6名

- **第3回**
令和6年
9月30日(月)
(参加27名)

実施場所	NEXCO中日本名古屋支社 東名高速道路秋季集中工事
工事名等	羽島管内舗装補修工事 大成ロテック(株) 豊田管内舗装補修工事 日本道路(株) 名古屋管内舗装補修工事 大有建設(株) 名古屋管内維持修繕業務 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)
参加者	名古屋支社 保全サービス事業部 6名 名古屋支社 豊田保全サービスセンター 4名 名古屋支社 名古屋保全サービスセンター 5名 名古屋支社 羽島保全サービスセンター 2名 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株) 3名 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株) 名古屋事業所 2名 日本道路建設業協会中部支部 5名



中部緊急防災隊式典

日本道路建設業協会中部支部の会員各社らで構成する中部緊急防災隊は7月24日に令和6年度防災隊式典を名古屋ガーデンパレスで開催しました。

愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県より隊員ら約150名が集結し、中部地方整備局など災害協定機関に一致団結した行動を披露し、士気を高めました。

山縣裕本部長は「いかなる災害に対しても、培ってきた経験を生かして対応する。隊員各位には、緊急連絡体制の強化や資機材の点検・確保を一層充実させ、迅速で、的確な行動をお願いします。」と訓示をしました。

続いて来賓の伏木章尋中部地方整備局統括防災官は「能登半島地震では元旦発生にもかかわらず災害対策支援活動を迅速に対応していただき感謝す

る」と謝辞を述べました。手塚文明日本道路建設業協会環境・安全部会長の祝辞に続き、中野谷眞己隊長が綱領を朗読し、防災意識の高揚を図りました。

式典後、山本幸司名古屋工業大学名誉教授に「大規模地震発生時の緊急避難と緊急対応について」をテーマに講演して頂きました。



中部緊急防災協会 令和6年度 通常総会

日本道路建設業協会中部支部の会員を中心に構成する中部緊急防災隊は、6月4日、名古屋市のホテル名古屋ガーデンパレスで令和6年度通常総会を開催し、令和5年度の事業活動報告・決算、令和6年度の事業計画・予算などを審議し承認しました。山縣裕本部長は「能登半島地震で応急復旧活動に協力していただいた会員の皆様に感謝します。自然災害に対応していくことで地域の安全安心を確保する使命を建設業は担っている。その上で緊急時に対応できる体制を引き続き備えていこう」と呼び掛けました。

■令和4年度 中部緊急防災隊〈役員〉

役職	氏名	会社名及役職
本部長	山縣 裕	(株)NIPPO 中部支店 執行役員支店長
副本部長	中川 雄一	日本道路(株) 中部支店 執行役員支店長
総務部長	國島 太佳生	(株)市川工務店 常務取締役
愛知隊長	中野谷 眞己	大有建設(株) 取締役常務執行役員建設事業本部長
三重隊長	濱口 健	朝日土木(株) 取締役営業部 部長
静岡隊長	平井 美次	中村建設(株) 常務取締役
理事	杉山 雅浩	大林道路(株) 中部支店 執行役員支店長
〃	淵上 修	(株)ガイアート 中部支店 執行役員常務支店長
〃	松居 広	岐建(株) 常務取締役 本店長
〃	神野 晋也	昭和土木(株) 代表取締役社長
〃	松本 辰男	世紀東急工業(株) 名古屋支店 執行役員支店長
〃	若林 和仁	大成ロテック(株) 中部支社 支社長
〃	難波 陽一	中部土木(株) 代表取締役社長
〃	田光 剛	東亜道路工業(株) 中部支社 常務執行役員支社長
〃	中井 俊彦	中井土木(株) 代表取締役社長
〃	岡田 啓源	前田道路(株) 中部支店 支店長
監査理事	井上 一人	鹿島道路(株) 中部支店 支店長
〃	宮内 友孝	(株)佐藤渡辺 中部支店 執行役員支店長
対策委員長	成瀬 博夫	地崎道路(株) 名古屋支店 支店長
参与	間宮 敏博	世紀東急工業(株) 名古屋支店 技術部長
〃	中森 栄輔	中部土木(株) 特別顧問

■中部緊急防災隊〈地区事務局〉

愛知地区	岡村 勝 大有建設(株)
岐阜地区	上田 幸司 (株)市川工務店
三重地区	松岡 慎一郎 朝日土木(株)
静岡地区	瀧本 昌司 中村建設(株)
長野地区	小椋 成之 吉川建設(株)



防災訓練

巨大地震を想定し防災訓練を実施

中部緊急防災隊(山縣裕本部長)は9月2日(月)に愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5地区で約120名が参加して防災訓練を行いました。

訓練は、午前8時30分に和歌山県南方沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震発生を想定、午前9時に日本道路建設業協会中部支部の会議室に災害対策本部を設置し、5地区事務局へ本部長の指示を伝達しました。各事務局より管内の16班と伝達方法や報告作業などの連絡体制を確認しました。

愛知地区においては小牧資材基地対策班が給水

タンクの架台組み立てや倉庫内の資機材の点検、保管状況を確認しました。

本部内では電話やFAXを使って受けた報告の内容を確認しながら訓練を行いました。



日本道路協会 道路功労者表彰伝達式

道路功労者表彰式は、過去に日本道路建設業協会から技能社員表彰を受賞された方の中から各支部が本部に推薦し、日本道路協会で決定された方への表彰で、毎年8月10日の「道の日」に合わせて表彰伝達式を実施しています。

今年では中部支部から6名の方が受賞され、8月19日に伝達式を行いました。

受賞者の皆様、おめでとうございます。

【受賞者】

株式会社市川工務店	村田 茂靖 様
岐建株式会社	小野 力雄 様
岐建株式会社	小畑 勝広 様
岐建株式会社	鈴木 利英 様
株式会社佐藤渡辺	仲田 康貴 様
中部土木株式会社	今井 悟 様



道建協の 社会・環境 貢献活動

令和6年度 道の駅 授乳室・授乳チェアの贈呈

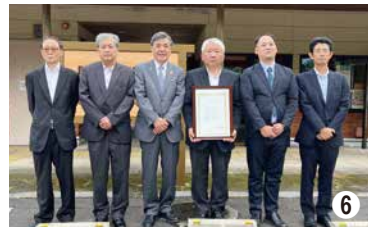
〈「子育て応援策」として管内8の道の駅に授乳室を寄贈〉

日本道路建設業協会は、一般社団法人全国道の駅連絡会と連携し、国土交通省が推進する道の駅「子育て応援」施設の整備支援として、今年度(第2期)、全国53の道の駅へ簡易設置型授乳室と授乳チェアのセットを寄贈しました。

中部支部では、9月から8カ所の道の駅に授乳室・授乳チェアを贈呈しました。

贈呈を受けた自治体代表者からは、授乳室などがあるベビーコーナーを設置することにより、子育て

世代の皆様にも安心して道の駅に訪れていただけるようになる、災害時にも活用できるものをいただきありがたいなどのご挨拶を頂きました。



【令和6年度 授乳室寄贈先】

- ① 場 所: 揖斐川町 夜叉ヶ池の里さかうち
贈呈式: 令和6年9月20日(金) 11:30~
- ② 場 所: 伊東市 伊東マリンタウン
贈呈式: 令和6年9月26日(木) 14:00~
- ③ 場 所: 飯田市 遠山郷
贈呈式: 令和6年9月27日(金) 9:30~
- ④ 場 所: 本巣市 織部の里・もとす
贈呈式: 令和6年10月3日(木) 14:00~
- ⑤ 場 所: 飛騨市 宙ドーム・神岡
贈呈式: 令和6年10月10日(木) 15:00~
- ⑥ 場 所: 下呂市 馬瀬 美輝の里
贈呈式: 令和6年10月16日(水) 15:00~
- ⑦ 場 所: 恵那市 そばの郷 らっせいみさと
贈呈式: 令和6年10月29日(火) 15:00~
- ⑧ 場 所: 沼津市 くらら戸田
贈呈式: 令和6年10月30日(水) 14:00~

会員だより

スペイン旅行記

三井住建道路(株) 管理部 松浦 加奈

2024年の一番の思い出は、新婚旅行でスペインに行ったことです。7泊9日のツアーに参加しマドリドからアンダルシア地方、そしてバルセロナを観光しました。

マドリドでは世界三大美術館と言われているプラド美術館へ行き、エル・グレコの『受胎告知』やベラスケスの『ラス・メニーナス』、ゴヤの『裸のマハ』等を観ました。感動してテンションが上がりここで図録と1000ピースのジグソーパズルを買ったため旅の序盤でスーツケースがパンパンに…。



プラド美術館



オルガス伯爵の埋葬

マドリドを少し散策した後、古都トレドへ。キリスト教、ユダヤ教、イスラム教の文化が入り混じった街並みは世界遺産に登録されており、『もしスペインに1日しかいられないのならトレドへ行け』と言われるのも納得できる美しい街でした。サント・トメ教会でエル・グレコの傑作『オルガス伯爵の埋葬』も観ましたが、絵の中からこちらを見つめるエル・グレコがいて面白かったです。



Mahouのビール

コルドバメスキータ

観光後は食事とともにお酒を楽しみました。旅中に色んなお酒を飲みましたがビールはマドリドで飲んだ『mahou(マオウ)』が個人的には好きでした!お酒の価格もお手頃なのでついお土産でも買ってしまいました。

マドリドから高速列車AVEで南下してコルドバのメスキータへ。メスキータはスペイン語でイスラム教の礼拝所である「モスク」の意味とこのことです。コルドバのメスキータはキリスト教の大聖堂ですが、キリスト教の施設がモスクと呼ばれるわけは、2つの宗教文化が長い時を重ねて奇跡的に融合した結果だそうです。異文化の融合が不思議で幻想的な建築物でした。

続いてはグラナダへ

グラナダではイスラム建築の最高峰と言われているアルハンブラ宮殿を見に行きました。アルハンブラ宮殿は学生時代から絶対に行きたいと思っていたので行くことができてとても嬉しかったです。実物は美しすぎて感動しっぱなしでした。



アンダルシア地方ではその他にもミハスやロンダ、セビリアに行きました。田舎なのでスリの心配もあまりなくのんびり過ごせました。



ミハス 写真映えするかわいい町



ロンダ 断崖絶壁、景色がとて面白い

最後にバルセロナを観光しました。サグラダ・ファミリアはまだ建設途中で大きなクレーンが動いていてとても迫力がありました。2026年ついに完成することですが完成したらまた行きたいです。

スペインに滞在したのは1週間程度ですが、ここには書ききれないくらいたくさんの思い出ができました。長いようで短い人生、思い出に残るような経験をたくさんして、より豊かな人生が送れるように日々のお仕事も頑張っ取り組みたいです。



セビリア大聖堂& ヒラルダの塔 (右)中から

編集後記

昨夏、第33回夏季オリンピック競技大会(2024)が100年ぶりにフランスの首都パリで開催され、セーヌ川での「多様性と他者性」をテーマにした革新的な開会式から始まり、新たな名シーンとドラマが生まれ、多くの感動が届けられました。前回大会の東京オリンピックはコロナ渦での無観客開催だったため、今大会は8年ぶりの有観客開催となり、開会式から閉会式まで会場には熱気が戻り、選手たちの活躍に多くの観客が歓声を上げる中、日本選手団はパリの地で大きな成果を収め45個のメダルを獲得し、うち20個は金メダルという素晴らしい活躍を見せてくれました。中でも、前回の東京オリンピックでは、10.103の僅差で金メダルを逃した日本男子体操の団体戦は、チーム全員で取り組んだ『着地へのこだわり』が実を結び、大逆転し金メダル奪還を果たしました。日本は中国に離されても離されても最後まで誰一人諦めることなく、日本国民の期待を一身に背負った橋本選

手が最後の最後にミスなく着地を決めて奇跡と呼んでいいような大逆転勝ちを果たしました。

「絶対に諦めない」、言うのは簡単でも実行するのは難しい言葉です。誰もが思いを強く持ち、チーム一丸となることが不可能を可能としました。

2024年は地震や豪雨などの自然災害で被災者の方々は大変辛い思いをされてきました。しかし、復興に向けて「絶対に諦めない」という被災者みなさんの強い気持ちに応えるためにも、国と建設業界がチーム一丸となり全力で被災者の生活再建のための住宅の建設や産業基盤の再構築など、地域復興に必要なインフラの整備を行っていくことが使命だと思われま。今年は自然災害がなく、安全・安心な明るい一年になることを心から祈念いたします。

広報委員 岡村

(一社)日本道路建設業協会 中部支部「広報委員会」まで

連絡先

●TEL 052-971-5310 ●FAX 052-971-5375
●ホームページ <http://www.dohkenkyo.or.jp/> ●Eメール chubu@dohkenkyo.or.jp

道路開通

Road opening of traffic

- 国道23号 蒲郡バイパス (約9.1km)

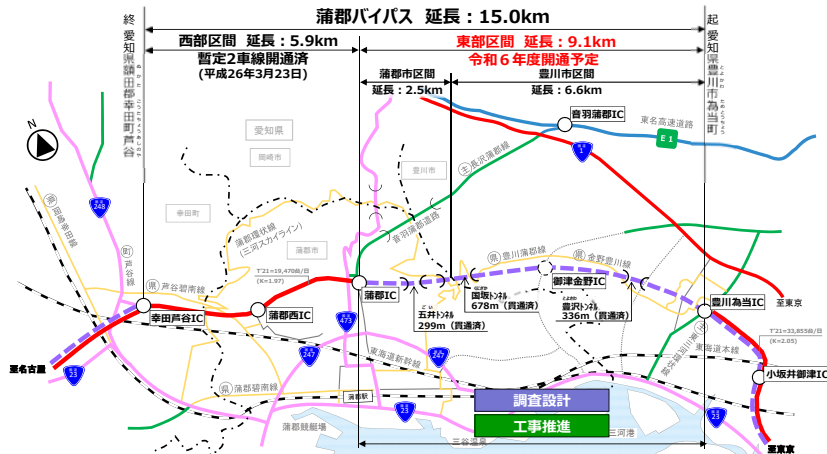
豊川為当IC から **蒲郡IC**



▲ 為当IC



▲ 蒲郡IC



もうすぐ
開通!

- 国道1号 北勢バイパス (約4.1km)

市道日永八郷線 から **国道477号BP**



一般社団法人
日本道路建設業協会中部支部